

## がんばれミズ君ダイアリー

—ミコンずぼらな記録: その5 (2011—中断)—

### ■平成22年・師走

この冬、新しいミズ箱を始めました。昨年(2010年)の末に遡って淡々と紹介します。

平成22年12月19日(日)

東京の一人暮らしアパートでミズコンポストを画策。調理と言えほどのことはしないが、それでもお茶っばとかコーヒータとか果物の皮くらいのごみは出る。少し調理するものをすれば野菜くずも出る。生ゴミが出るとなるとミズだ。というわけで東京でもミズコンポスト。

かの有名なキャノワーム(Can-O-Worms)はどうもオーストラリアから取り寄せるらしく時間がかかりそう。しかし(有)相模浄化サービスさんが、自社製品である「みみ蔵」「みみ蔵キット」とともに取り扱いをしているようでもある。とりあえずネットで資料を請求する。

12月23日(木)天皇誕生日

エイミスチュアード『ミズの話』2回目読了。この本を読んだ最大の収穫は、ミズコンポストは湿ったまま使用すること。今まですっかり乾燥させていた。小さなゴミまで取り除くにはふるいにかけるのが効果的で、乾燥していた方がやりやすいから。しかしそれでは、土中の有機物を無機物に分解している有用な微生物や植物の生育と窒素固定を助けている真菌が死んでしまう。せっかくミズが増やしてくれたのに無駄なことをしていた。

アパートの前、道を挟んだ向かい側のアパートの1階にある上州屋へ。ミズを1箱買う。無愛想な店員。「神竜ミズ」(太)315円也。今水戸の自宅で飼っているミズの祖先もこれだったような気がする。

箱には会社名が無い。製造(?)元も販売元も書いてない。まあ、ブランドは気にしないのでどうでもいいのだが、ミズ販売はそういう世界か。注意書きはあった。「本品はつり餌用です。では食べられません。」その他「特徴」として、「特製の飼料を使用していますから生きが良く、長時間の保存ができます(10℃~20℃保存)」。



さてミズをどこで飼うか。「みみ蔵」はまだ届いていないし、立派なミズ箱を用意する必要もない。昔ミコンを始めた頃にはそうだったのではない。それこそビニール袋の中でもいい。まずは週明けに生ゴミが出るまで、ミズ君たちには買ったままの「神竜ミズ」箱の中で過ごしてもらおう。それにしても先日(有)相模浄化サービスにネットで頼んだパンフレットが届かない。

12月28日(火)

ちょうど昨日「水とりぞうさん550mlタンクタイプ」を取替えて、プラスチック製の空き容器が出来た。これでどうだろうか。ミズ君を箱から出し「水とりぞうさん」の空き容器に。ちょうど出来たての生ゴミ(茶がら)を加える。サララップをかぶせ、ボールペンの先でいくつか空気穴を開けておいた。逃げ出して部屋内を這われると困るので、寒いと思うが心を鬼にしてベランダに。

12月29日(水)

ベランダのミズは寒風に晒されてかわいそうなので、風呂場へ移動。逃げ出さないとも限らないので、ポリバケツをかぶせておく。

### ■平成23年・睦月・「みみ蔵キット」ゲット —水戸のわが家のミニ梅の木にはすでに花

平成23年1月4日(火)

ポリバケツをそっとどけてみると、ミズが一匹「水とりぞうさん」から這い出して、ポリバケツに寄り添っていた。割り箸でつまみ上げて容器に戻し、元通り風呂場においてポリバケツをかぶせる。

1月5日(水)

年が明けて(有)相模浄化サービスからパンフレットが届いていた。「みみ蔵」は組み上げられて出来あいの製品。「みみ蔵キット」はご自分で、というもの。せっかくだから少しは自分で作業を試みることにしよう。「みみ蔵キット」をネットで注文。1月20日納入依頼。

1月6日(木)

朝5時起床。風呂に入ろうと浴槽を覗いたらミズが一匹死んでいた。「水とりぞうさん」から這い出たミズは一昨日の一匹だけでなかったのだ。もう一匹がポリバケツの外にまで這い出し、洗い場に立ってかけてあった浴槽のふたにくっつき、そのふたを昨夜浴槽内に立てかけておいたものだから浴槽内へ。と思う。まさか床を這って浴槽内まで移動したとは思えない。凍死と思われる。

「水とりぞうさん」の中を窺ってもミズが動いている様子がない。生きていたのか?コンポストが出来ていなくて発酵が起きていない状態では、寒さに耐えられなかったのだろうか。

そんなに簡単に死にはしない。風呂場より部屋の中の方が暖かい。部屋の中においてもう少し様子を見よう。「水とりぞうさん」からは容易に這い出すことがわかった。部屋の床を這ってくれると困る。「水とりぞうさん」ごとスーパのビニール袋に入れておく(右写真)。少しきつく結んでおけば這い出すことはないだろう。

帰ってみると、ミズが3匹、「水とりぞうさん」から脱出し、ビニール袋の内側に張り付いていた(右図。赤い筋が見えるかな)。そら見ろ、まだ生きている。



(有)相模浄化サービスさんより「みみ蔵」注文受理

の丁寧なメール:

一年末年始休業のため、返信が遅くなり申し訳ない。

—1月19日発送、1月20日午前中着の予定。

—請求金額は、

・みみ蔵キット 1台 24,800円

・消費税 5% 1,240円

・送料 一式 892円

・合計 26,932円

—商品に同封の郵便振込用紙で振込み。

—今回注文分にはシマミズは含まれない。入用の際は改めて連絡。

—発送が完了次第改めてご連絡申し上げます。

1月11日(火)

ついにミズ一匹がビニール袋からも這い出し、部屋の床へ。危うく踏みつぶすところだった。他にいないか探したが一匹だけだったよう。

「水とりぞうさん」の容器は何のバリアにもなっていないのであるからこれを諦める。内容物(エサ)とミズをそのままビニール袋の中に入れ、ビニール袋を二重に。そしてふたつとも口はしっかり閉じた。

(有)相模浄化サービスよりメール:

—こんにちは。ご連絡ありがとうございます。

—納期の件、1月19日午前中着にて発送手配する。

—みみ蔵・みみ蔵キット販売終了については、加工をお願いしていた

木業者さんが体調面の事情で急きょ廃業することになり、同じ

件で加工をお願いできる場所が見つからず、残念ながらひとまず

販売終了。

—今後もミズ養殖・販売は続ける。不明点など問い合わせOK。

—それではよろしく申し上げます。

手作りの作品だからねえ。残念です。オーストラリア産(Can-O-Worms)ではない、「和風建築」を普及させたいものです。

1月12日(水)

今朝もミズはビニール袋の内側を這い上がっている。3匹。空気が足りないのでは結んでいる上部を目指すのか。



ビニール袋を紙袋に入れ洗面台の前の床に置く。明るいうち嫌うので、洗面台の蛍光灯をつけたまま家を出てきた。夜帰宅して観察すると、狙い通り、ミズは這い上がっていない。試しに真っ暗にして寝る。

1月20日(木)

ミズはビニール袋内側を這いあがっていた。これで、明るくしておけばビニール袋の底のえさに潜りこんで、ビニール袋の外まで這い出る心配はさなそう。ということがわかった。これ以降、「みみ蔵」に転居するまで点けっぱなしの灯りの近くにおく。東京電力さん、ごめんなさい。



対応して下さった関野さんは、[こちらの見学会](#)に映っている方ですね。ちょっと情報古いですが。

1月9日(日)

(有)相模浄化サービスへ、みみ蔵発送日変更希望のメールを送信。一ご連絡をありがとうございます。配送をよろしく願います。一もし可能なら結構なのですが、予定を1日早め、「1月18日発送、1月19日午前中着」とできないでしょうか。一PS:「みみ蔵」「みみ蔵ごと」の販売が終わるとのこと、何か問題があるのでしょうか。残念です。

1月10日(月)

今日もミズは「水とりぞうさん」の容器から脱出しビニール袋内側を這っていた。割り箸でつまんで容器に戻してやる。そうでないと容器から這い出たミズはおそらく容器へは戻らず、餓死してしまうだろう。

朝7時すぎ、1階の管理人室が開くを待って、昨日届いていたはずの「みみ蔵キット」を受け取る(上写真)。でかい。部屋に置いて出動。

いつものように深夜0時過ぎ帰宅。「みみ蔵キット」の箱を開ける(右写真)。説明書を取り出しざっと読む。金槌とプラスドライバーが必要とのこと。



1月24日(月)

水戸の自宅から金槌とドライバーは持ってきた。しかし、深夜に帰宅してさすがに作業をする気力起きず。

1月25日(火)

帰宅後、1時間だけと決めて「みみ蔵」の組立てに着手。4面のうち1面だけ出来た。夜中にトンテンカンと音を立てるのは気になるが、お隣さんにはこれから何日間か、「何だ?」と不思議に思っているらおう。結局今週「みみ蔵」組み立てが出来たのは1日だけだった。

## ■如月・「みみ蔵」始動 一借楽園の梅も早々と開花

2月1日(火)

「みみ蔵」、今日も作業できず。ミズは未だにビニール袋の中だ。

2月11日(金) 建国記念日

今日は祝日。「みみ蔵」の最終作業に取り掛かる。

先週は2日ほど作業。屋根用に小さめのドライバーが必要だったので、週末水戸の自宅から持ってきて組み立てを進めておいた。今日は底板の取り付けと残りの1面。

底板の取り付けにやや時間を費やす。組み立て図が私にはわかりにくかった。何度かとりつけてみては外してつけ直し(下左写真)。これが正解かどうかわからない。

何とかかんとかそれでも完成。われながら雑な作だ。1月20日に受け取って以来、数回に分けて組み立て、合計5時間程度の作業で完成。便利ですね。よく出来ています(下中央写真)。

さすがにベランダは寒くてミズの活動が落ちるので、試しに部屋の中で飼うことにしよう。出来上がった「みみ蔵」を部屋の隅に、配送時の段ボール箱の中に置く(下右写真)。短冊状に切った新聞紙も用意。



まだミズは入れない。明かりをつけたままの洗面台の前でビニール袋に入ったまま。新居に居つかせるのが難しい。これまでの経験によれば、最初の世代は環境の変化を嫌って逃げ出そうとする。それを逃げないように押し込んで卵を産ませ、生まれた第2世代からはそが我が家であり逃げ出さない。

今日から3連休で留守にする。今、ミズの引っ越しをして、留守の間に部屋中にミズが這っていることになるかも知れぬ。それは避けたい。

2月15日(火)

東京に戻り、さて、今日は動きがあった。

ミズの入ったビニール袋をそのまま新築「みみ蔵」に移す。ビニール袋の口をいくぶんか緩める。口をしっかりしばっておかないと逃げ出すからだが、ちょっと空気が不十分な気がする。口に向かってミズが2、3匹這い上がるのは空気を求めてか。

深夜1時半頃に帰宅。「みみ蔵」を覗く。ビニール袋の外に4、5匹。1匹は「みみ蔵」の底に敷いた段ボールの上まで出ていた。他はビニール袋の外側に張り付いていた。「みみ蔵」の外までは出ていない。

いよいよビニール袋の中身をミズともども「みみ蔵」内へ移す。それと、今まで台所の下に保存(?)しておいた生ごみ一ほとんどは茶がら、バナナの皮、コーヒーがらも一緒に入れる。これがホントの引っ越し。それにしてもどうも元気がなく心配。

生ごみの上から、濡らした短冊状新聞紙を広げる。濡れた新聞紙は広げにくい。考えてみれば、新聞紙は水分源と炭素源の役なので、短冊状でなくてもいいのでは? おそらく大きな新聞紙をかぶせると通気が不十分になるからだろう。とにもかくにも、第4代ミズ箱、発進!

2月16日(水)

朝起きて「ごみ臭」はしない。ミズはごみの山、つまり餌の山の中におとなしくしているよう。ひとまず安心。しかし、おとなしく、というのは元気がないこと。動いていない。光が当たっても反応しない。瀕死だ。そんなバカな 何が悪いのだろう。

2月17日(木)

ミズはどうもイカン。おそらく。情けない。7年間もミズを飼ってきて、まだこのような失敗をする。ホントに情けないなあ。

しかし、何が悪いのだろう。コーヒーかすだろうか。コーヒーかすは酸性が強すぎるので多量に与えてはいけないらしいが、水戸の自宅では構わず放り込んでいる。餌は少し水分が不足気味だが、乾いてはいない。餌は悪くない、と楽観的に思いたい。ビニール袋の中にいたとき酸欠ですでに体力を消耗していたのか?

かろうじて生き延びて新築の家に引越し、晴れて大量のえさに困まれたが、時すでに遅し。蘇生できなかった、というのが楽観的観測。餌が悪いと考えるのが悲観的考え。これだと、新しくミズを投入しても同じことを繰り返すだろう。試してみよう。もし餌が悪いのなら、これは僕の食生活から出るごみがミズに適していないというわけだ。食生活を変えるか、ミズのために…。

2月26日(土)

久しぶりに水戸の家のミズ箱の下のコンポスト受けを覗く。かなり乾いていた。このコンポストからミズを避難させたかどうか記憶にない。小さなミズを2、3匹見つけたが、もし以前に避難させてなかったとしたら 他は皆乾燥のために死んでしまったのだ。コンポストを全部ミズ箱に入れ直す。

2月27日(日)

水戸のミズ箱からミズと生ごみを透明のビニール袋に入れる。何匹か数えてなどいないが多分100匹程度は入れた。これを東京の「みみ蔵」に投入するのだ。東京まで運ぶのにプラスチック容器か金属容器を探したが、何のことはない、ビニール袋に生ごみと一緒に入れて明るいうちに置いておけば這い上がって来ることはない、ということがすでに判明している。ミズを入れたビニール袋を紙袋に入れて東京へ運搬。

「みみ蔵」の屋根を開け、生ごみをそと掻き分けてみる。きつと初代ミズは全滅だろうと思っていたら、何匹かは生きていた。しかしほとんど動かない。元気がない。

掻き分けたところへ水戸のミズを投入。先住ミズより小さめ。新参者は逃げ出すかも知れない。慣れない環境に放り込まれたからね。しかし、逃げ出さないで元気がなくなっていったり死んでしまったらやらやっかい。それは僕が作ったみみ蔵環境が良くないということになるから。

エサ全体が乾燥気味だと思ったのでコープ2杯分くらいの水を注いだ。だが、注ぎ方が失敗だった。ジョボジョボと注いだ結果、コンポスト取りだし口からポタポタと水滴が落ちた。「みみ蔵」を置いてある段ボール箱が濡れていく。慌ててキッチンペーパーと新聞紙で拭きとる。濡らせた短冊状の新聞紙で十分なのかも知れないが、水を与えるにはスプレーが要るな。

## ■ 弥生

3月3日(木)

深夜帰宅後みみ蔵を覗く。水分が蒸発しやすいと思い水を。しかしこの前みたいに直接注ぐと通過するだけだから、かねて用意していた短冊状の新聞紙をエサ表面に並べ、そこへ水を少しずつ注いだ。今度はみみ蔵から垂れてくることはなかった。

ミミズが元気ないのは、気温がまだ低いのと、おそらくは気温が低くてえさが十分に腐っていないからだろう。ミミズが食べるのは腐った食物の表面に発生する微生物らしく、歯があってバリバリと食べるわけではない。えさは腐ることが先決。今与えてあるえさはミミズにとってまだ新鮮すぎるのだろう、というのが今のところの推測。少しずつえさは腐っていくからたぶんこれから元気になるに違いない。それとともに部屋の中に臭気が漂うようになるかも。

## ■ 文月

7月24日、取り急ぎ

●今年3年目の朝顔・風船かずらグリーンカーテンは異変。朝顔は弱々しく、風船かずらの成長がよくない。これでは肝心の日差しが強い時にカーテンにならないではないか。一体どうしたことだろう。

●東京の「みみ蔵」は失敗。面倒を見切れなかった。中を覗いたら干からびた死骸が残っている。正常なミミズ箱では死骸はみつからない。微生物によって分解されてしまうから。死骸が残るなど、全くミミズコンポストの機能を果たしていなかったのだ。可哀そうなことをした。

・・・この後、2014年まで、この日記は途絶えます。